阿賀野川えとこだプロジェクト × 阿賀野川エコミュージアム → あがのがわ環境学習ツアー & グッズ&ネットショップ 阿賀の宝もんのがたり
新潟県

第36号
2023.3.1

阿賀野川 え～とこだより
aganogawa E-toko dayori

「ドローンから撮影した、阿賀野川から水を引いている新江用水の桜並木」場所：阿賀野市保田

もくじ

特集1　阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第11回）開催のお知らせ――2
・令和4年度パネル巡回展開催記念
写真と映像で振り返る
阿賀野川・光と影のスポット巡り
特集2　阿賀流域再発見・連続ツアー講座2022――4
阿賀野川上・中流域の水のゆくえ、
光と影をたどるツアー・開催レポート
インフォメーション――8

地域のさまざまな人々や団体との協働取組の再開に向けて

地域の未来にも生かせるようにデジタル化を取り入れた協働の促進を

全国各地でさまざまな対面式のイベントが再開されるようになり、FM事業（※1）でもオンラインと組み合わせつつ、対面式のイベントやツアーを約3年ぶりに実施いたしました。参加された皆さんからは、多くの学びを得られて、次回もぜひ参加したいとの嬉しいお言葉をいただいております。

阿賀野川流域でも、各地域の人々や団体が活発に活動し始めており、FM事業では今後、こうした流域の人々や団体と協働したイベントやツアーを展開していく予定です。そして、次第に新型コロナウイルスの感染拡大以前の水準に戻せるよう、努力してまいります。

その際に、以前のFM事業の取組とは異なるのが、地域と協働したイベントやツアーなどに、ネット動画やオンライン配信などのデジタル化を取り入れていく点です。このように、FM事業と地域の協働を通じて、阿賀野川流域の歴史や文化が記録され、そこから見出される光と影の教訓を地域の未来にも生かせるように、来年度も多種多様な取組を展開してまいります。

※1「阿賀野川え～とこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。

この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

新潟水俣病関連情報発信事業

4大学合同フォーラム

イベント参加無料

新潟大学　新潟県立大学　新潟医療福祉大学　上越教育大学

新潟県の新潟水俣病関連情報発信事業に取り組んでいる4大学の学生が、それぞれの取組の成果を発表し、地域全体が新潟水俣病患者等を支える社会づくりについて、広く県民の皆様と共に考えます。

開催日時　2023年3月18日（土）13:00～16:00　12:30～受付開始 ライブビューイング会場の場合

開催方法・定員
1. Zoomウェビナーへのオンライン参加　定員100名
2. ライブビューイング会場への参加　定員30名
会場　県立環境と人間のふれあい館 新潟水俣病資料館
住所：新潟市北区前新田364-7（「ビュー福島潟」の隣り）

参加方法　事前申込制です。申込締切 2023年3月15日（水）

❶ Zoomウェビナーへオンライン参加される場合

二次元コードの読み取りまたは申込フォームURLからお申し込みください。後日、Zoomウェビナーの URLをメールにてお送りします。

申込フォームURL → https://forms.gle/anTrgBh2HEg9WvMZ9

❷ ライブビューイング会場へ参加される場合

【申込みフォーム】二次元コードの読み取りまたは申込フォームURLからお申し込みください。
【電話】お問合せ先の電話番号におかけいただき、氏名（複数人の場合は参加希望者全員分）・電話番号をお知らせください。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によってはライブビューイングを中止する場合があります。
※ご来場の際はマスクの着用をお忘れなく

お問合せ　新潟県立大学　025-368-8225　unpreco@unii.ac.jp　FAX 025-364-3610

当日のプログラム

12:30　受付（ライブビューイング会場）
13:00　開会（新潟県立大学）
13:10　学生からの発表（各大学20分程度）
- 新潟大学「水俣病を生活者の次元から理解する」
- 新潟県立大学「水俣病事件の学び方を考える」
- 新潟医療福祉大学「新潟水俣病の学びをつなぐ～特色ある取組～」
- 上越教育大学「新潟水俣病を学び伝える小中学校社会科学習プログラム開発」

14:50　休憩
15:00　トークセッション
〈コーディネーター〉森沢 真理 氏（新潟日報社 特別論説編集委員）
学生からの発表をふまえ、地域全体が新潟水俣病患者等を支え、共に生きる社会づくりについて、参加者と一緒に考えます。
15:50　閉会（新潟大学）

主催●新潟大学・新潟県立大学・新潟医療福祉大学・上越教育大学　共催●新潟県　後援●新潟市・五泉市・阿賀野市・阿賀町

「阿賀野川え～とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」（略称FM事業）と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え～とこだ！憲章（事業理念）

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。　（阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会）

編集後記

第36号はいかがでしたでしょうか？

新型コロナウイルスの流行はいまだ収束していませんが、さまざま対面式のイベントが、感染対策をしつつ実施されるようになりました。FM事業でも少しずつ、対面式のイベント開催を拡大させようと考えています。

ＦＭ事業では令和5年度も、新たな試みに挑戦してまいりますので、10月発行予定の次号もご期待ください！

今号表紙の写真「新江の桜並木」
新江用水は、阿賀野川頭首工から取水され、阿賀野川沿いの田畑を潤しながら、新潟市北区まで流れています。阿賀野市保田地内を流れる新江用水には桜並木が植えられ、春の開花時には見物する人々でにぎわいます。

阿賀野川え～とこだより 第36号
発行：新潟県（※環境省補助事業）　発行日：2023年3月1日
企画編集：一般社団法人あがのがわ環境学舎（〒959-2221 阿賀野市保田3866-1）
TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え～とこだ!流域通信
https://aganogawa.info/
え～とこだよりのバックナンバーも見れます！